

産業人材の育成と日本語教育 ——私の青春とタイとの出会い——

田中 寛

真冬の日本から常夏のタイへ。あたかも瞬間移動した数日の体験だった。このたび、私はタイ、バンコクで開催された泰日経済技術振興協会（略称 TPA）設立 50 年記念式典に日本人関係者の招待を受けて出席した。一月はタイでは一年で比較的過ごしやすい気候である。二月下旬からはじまる猛烈な暑さの前にひととき体を動かす格好の時期でもある。とはいえ到着するや、汗が一気に噴き出た。40 年前の青春の日々が一気によみがえった。

この協会は一九七三年二月に、当時の貿易格差から来る東南アジア、とりわけタイ、バンコクで高まる日本批判を緩和する一方で、タイの自立的発展をめざし、技術移転、および産業人材の育成を目的に設立された。日本のアジア文化会館（ABK）、財団法人海外技術者研修協会（AOTS）（現在の一般財団法人海外産業人材育成協会）で留学、技術研修を終えて帰国したタイ人が中心となり、また日本の通産省（現経産省）の支援、民間企業の後押しもあって、一般社団法人日・タイ経済協力協会（JTECS）を日本側パートナーとし、独自の経済支援がスタートしたのである。その設立の基本となったのは、この二つの ABK、AOTS の設立にかかわった穂積五一氏のアジアに寄せる大いなる連帯精神であった。アジア人として、アジア人を支え合い、人間としての絆を確立する。そこに多くの人たちが共感しそれぞれの青春を燃焼したのであった。

私は大学を卒業すると同時に海外技術者研修協会に入職し、日本語教師として海外から来日する技術研修生に対する短期集中の日本語教育に従事することになった。大学では東洋史を学んだ私は突如言語教育、外国語教育の現場にたち、異文化異言語接触の最前線で多くの人と人のつながりをどう育てていくか苦闘と試行錯誤の日々でもあった。日本語教師の三年目にタイ出向を命ぜられ、TPA の日本語教育アドバイザーとして四年間、当地の日本語教育のカリキュラム、日本語教科書の編纂にあたった。産業人材育成と日本語教育の真価を問う日々は私にとって、まさに人生の大学であった。それまでの異文化異言語接触を日常そのものとして、さまざまな試練に直面し、それを克服する知恵を試されたのである。

今回の式典では約四十数年前の友人、知人、教え子と再会し、心温まる友情の絆を再認識することができた。現在のタイはあの 70 年代から 80 年代のタイとは想像もつかないほどの発展を遂げ、バンコクには高層ビルが無数に林立し、高架鉄道、地下鉄も整備され、現代都市に生まれ変わった。その一方で交通渋滞、大気汚染は目下の課題としていまなお継続している。貧富の差もいくらか是正されたとはいえ、中間層の発展とともに持続可能な成長がいまなお望まれている。

式典ではこの 50 年の間にさまざまな貢献をされた協会指導者、関係者の表彰、各界からの祝辞があり、また将来を見据えた協会の今後をかたる座談会も催された。コロナ禍のなか

で当初の予定された規模をやや縮小して開催されたが、今後のさらなる飛躍、とりわけ姉妹団体の泰日工業大学（TNI）の未来への使命なども熱く議論されたのが印象的だった。若い日とともに汗を流した人たちは七十歳、八十歳を超えていたが、なお意気軒高で青年のような笑顔が満面にあふれていた。私は40数年前の赴任当時を思い起こし、私を育ててくれた協会に心から感謝し、また今後のゆるぎない発展のために何をすればいいのかを考える機会となった。TPAの日本語教育は産業人材の育成に重点が置かれていたが、日本語教室にはさまざまな人々が夢と希望を抱いて集っていた。私は今でも彼らの輝いた眼差しを忘れることができない。彼らは異言語を学ぶことで、自己を発見し、豊かな人生を設計しようとした。そして私もそのように生きたいと願ったのである。

日本語を学んだ学生も日本語を教えた私も年齢を重ね、それぞれの思い出を語る機会を得たことは人生の宝箱のような時間であった。そして、ここまで元気で来られたおかげで実現した、奇跡のような感動的な再会であった。人間と人間の絆を実感した。私はTPAの末端にいた一人にすぎないが、多くのタイ人と汗を流したことが以後の人生を築いてくれたことにあらためて感謝している。

式典のあと、数日の日程を調整して、バンコクに二日、地方に二日、滞在した。バンコクでは1937年に開校した、かつてのバンコク日本語学校跡を見学し、往時をしのぶとともに、地方では南部三百キロ南下したプラチュアップキーリーカン県を再訪し、風光明媚なタイの海岸に魅了される一方で、太平洋戦争勃発時に日本軍が上陸した地点を訪れた。過去から現在への視点は、私が常に自らに課してきた思索の命題であった。残された人生の中で、アジアに生きることを考え続けたいと思っている。（写真は一部TPAのHPから）

